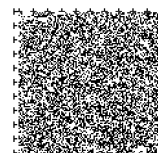
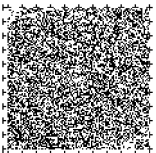


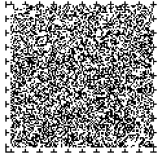
令和7年度実施
西東京市の障害者福祉に関する調査報告書
【概要版】

令和8年3月

西 東 京 市







1 調査の目的

令和9～11年度を計画期間とする第8期西東京市障害福祉計画・第4期西東京市障害児福祉計画の策定に向けて、市内に在住する障害者及び障害児などの生活状況、福祉サービスの利用状況及び今後の意向を把握し、次期計画に必要となる障害福祉・障害児福祉施策の現状把握のための基礎資料を作成することを目的として実施しました。

2 調査対象及び方法、回収状況

① 市民向け調査

対象地域：西東京市在住の市民

抽出方法：調査対象に該当する母集団から無作為抽出

調査期間：令和7年10月17日～令和7年11月7日

調査方法：郵送配布、郵送回収または専用のホームページからWeb回答

※発達障害者の方には関係機関に在所した際、調査協力に賛同した方だけに配布し、郵送回収。

※特別支援教育利用者調査は各学校から調査票を配布し、郵送回収。

対象種別による対象者、発送数及び回収率等は以下の表の通り。

番号	対象種別	対象者	発送数	回収数	回収率
01	身体障害者調査	身体障害者手帳所持者	834人	511人	61.3%
02	知的障害者調査	愛の手帳（療育手帳）所持者	638人	358人	56.1%
03	精神障害者調査	精神障害者保健福祉手帳所持者	897人	421人	46.9%
04	自立支援医療費制度受給者調査	自立支援医療（精神通院）を受けている方	100人	47人	47.0%
05	難病患者調査	難病医療費等助成対象疾病を患っている方	200人	121人	60.5%
06	発達障害者調査	発達障害と診断されたことがある方	50人	3人	6.0%
07	児童調査	障害者手帳を持っている、自立支援医療（精神通院）を受けている、難病医療費等の助成対象となっている児童の保護者	381人	219人	57.5%
08	特別支援教育利用者調査	障害の有無にかかわらず特別支援教育を受けている児童の保護者	511人	158人	30.9%
合計			3,611人	1,838人	50.9%

※発達障害者調査については、回収数が少なく、統計的な有意性を担保できないことから、障害種別による結果を割愛しています。なお、調査全体集計には反映されています。

② 事業所向け調査

対象地域：西東京市から施設入所支援の決定を受けた方が入所している市内外の障害者施設

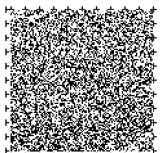
抽出方法：調査対象に該当する母集団から無作為抽出

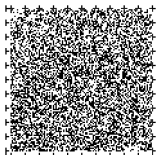
調査期間：令和7年10月17日～令和7年11月7日

調査方法：郵送配布、郵送回収または専用のホームページからWeb回答

対象種別による対象者、発送数及び回収率等は以下の表の通り。

番号	対象種別	対象者	発送数	回収数	回収率
09	施設入所者調査	西東京市から支援決定を受けた方が入所している障害者施設	50件	31件	62.0%
合計			50件	31件	62.0%





3 調査結果のまとめ

① 利用者・介助者の高齢化の状況

障害のある方の年齢構成は、「70歳以上」が30.4%と最も高く、次いで「50～59歳」が15.7%、「30～39歳」が13.3%となっています。一方、主な介助者の年齢については、「40～59歳」が31.2%で最多ですが、「60歳代」21.5%、「70歳代」14.7%となっており、60歳以上の介助者が約4割を占めています。

障害のあるお子さんの介助者においては、「40～59歳」が77.0%と高い割合を占めています。

② 相談の状況

現在の悩みや将来について親族・親戚に相談している割合は、障害のある方で「必要に応じて相談している」が37.1%と最も高いものの、「相談したことがない」も22.0%となっています。親族以外の相談先としては、「友人や知人」(22.3%)や「病院や診療所」(21.1%)などが挙げられますが、「特になし」とする回答が25.3%となっています。

一方、障害のあるお子さんの家庭では、親族・親戚に「必要に応じて相談している」が43.8%に上ります。親族以外では「職場や学校」(46.6%)や「病院や診療所」(44.7%)などが主な相談先となっています。

③ 生活支援の状況

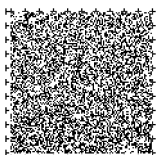
障害福祉サービスの利用状況をみると、障害のある方の59.1%が過去1年間に「利用したことがない」と回答しており、利用しているサービスでは「就労継続支援(A型・B型)」(10.7%)、「相談支援」(9.6%)、「訪問系サービス」(8.9%)が上位に挙がっています。利用の充足度については、「利用できている」「まあまあ利用できている」の合計が68.1%となっています。

施設入所者調査において、地域生活への希望をしている方は、「いる」の割合が12.9%、「いない」の割合が83.9%となっています。また、地域生活への移行を進める上での課題として、「利用者本人のニーズ把握」が71.0%で最も高く、その他に「利用者家族の高齢化」(67.7%)、「移行後の住まいの確保」(64.5%)などが挙げられています。

④ 子どもの学校生活や教育の状況

障害のあるお子さんの学校生活における困りごととして、「通うための付き添いの負担が大きい」が27.4%と最も高くなっています。特別支援教育を利用しているお子さんでは、本人の困りごととして、「まわりの児童・生徒とコミュニケーションがうまくできない」(22.2%)や「学校での支援体制が十分でない」(13.3%)が上位を占めています。

学校教育に望んでいることでは、「子ども一人ひとりにあった教え方や指導をしてほしい」が67.1%と最も高く、次いで「子どものことに関する相談にのってほしい(勉強、学校生活、子どもの将来についてなど)」(51.3%)、「学校で使う教科書や教材を、使いやすく・わかりやすくしてほしい」(17.7%)が挙げられています。



⑤ 雇用・就業の状況

障害のある方の就労状況は、「仕事をしている」が 43.6%に対し、「仕事をしていない」が 54.5%となっています。

今後の就労意向については、「働くことは考えていない」が 32.6%と最も高いものの、「フルタイムで働きたい」が 15.9%となっています。

⑥ 趣味や楽しいこと、居心地のいい場所の状況

趣味や楽しみが「ある」と回答した割合は、障害のある方で 70.5%、障害のあるお子さんで 95.0%に達しています。

一方、自宅以外に「居心地のいい場所」が「ある」と回答した割合は、障害のある方で 24.2%となっています。障害のあるお子さんでは「ある」が 52.1%と半数を超えています。

⑦ 差別・偏見、成年後見制度の状況

障害を理由とする差別や偏見について、障害のある方では「ほとんど感じることはない」が 51.2%ですが、障害のあるお子さんでは 33.8%で、48.9%が「たまに感じる」と回答しています。

嫌な思いを感じた場所として、特別支援教育を利用しているお子さんでは、57.1%が「保育所や幼稚園、学校」を挙げています。

成年後見制度の認知度は、障害のある方で「知っている／利用している」は 3.3%、「知っているが、利用していない」が 49.6%となっています。どのようなことが理由で成年後見制度を利用するかでは、「預貯金などの管理・解約」の割合が 35.5%となっています。

⑧ 生活環境の状況

災害時の不安事項として、障害のある方・障害のあるお子さんともに「障害の特性上、避難所にいることが困難」(18.0%、49.3%)や「避難所での他人とのコミュニケーション」(31.0%、46.1%)が高くなっています。

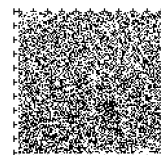
また、西東京市の住みやすさについては、障害のあるお子さんで「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた“住みやすい”の割合が 76.7%となっています。

5年後の暮らしについて、障害のある方では「自宅で家族や親戚などと一緒に暮らしたい」の割合が 38.0%と最も高くなっています。

⑨ 医療的ケアの状況

「訪問看護などの医療的ケアを受けている」と回答した割合は、障害のある方で 27.7%、障害のあるお子さんで 12.8%となっています。

自宅で行っている医療的ケアとして、障害のある方・障害のあるお子さんともに「リハビリテーション」(14.4%、28.6%)が最も高くなっています。



⑩ 情報取得やコミュニケーションの状況

福祉サービスの情報入手先は、障害のある方・障害のあるお子さんともに「市の広報紙」(40.6%、45.7%)が最も高くなっています。障害のあるお子さんでは「学校や職場」(44.7%)の割合も高くなっています。

コミュニケーション面では、障害のある方の22.9%が「困っていることを周りに伝えられない」となっています。

⑪ 施策の満足度、充実させるべき施策

西東京市の障害福祉施策全般に対する満足度は、障害のある方で「満足している」「やや満足」を合わせた“満足している”の割合が24.1%、障害のあるお子さんで「満足している」「やや満足」を合わせた“満足している”の割合が21.9%となっています。

今後充実させるべき施策の優先度として、障害のある方・障害のあるお子さん・特別支援教育を利用しているお子さんともに『家族などの介助者の負担を軽減するための支援を充実させること』で「優先度が高い」(43.2%、65.8%、67.1%)となっています。

⑫ 親亡き後や将来の生活について

親なき後や将来の生活について、障害のある方で「住む場所」(27.3%)「生活に必要な収入」(26.4%)「日常的な介助や家事の援助」(25.2%)の割合が高くなっています。障害のあるお子さんでは、「日常的な介助や家事の援助」(47.0%)「住む場所」(45.7%)「お金の管理や支援」(44.3%)の割合が高くなっています。また、特別支援教育を利用しているお子さんで「生活に必要な収入」の割合が43.7%と最も高く、次いで「相談できる人や機関」(32.9%)「お金の管理や支援」(31.6%)となっています。

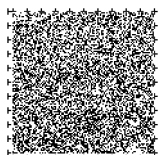
⑬ 地域生活支援事業について

地域生活支援事業の過去1年間での利用状況は、障害のある方で「移動支援」の割合が8.0%、「日中一時支援」の割合が4.9%、「利用したことがない」の割合が79.0%となっています。障害のあるお子さんでは、「移動支援」の割合が8.7%、「日中一時支援」の割合が12.8%、「利用したことがない」の割合が82.6%となっています。

また、利用している事業所について、「市外」を利用している割合が、障害のある方で12.4%、障害のあるお子さんで13.5%となっています。

市外の事業所(施設)を利用している理由としては、障害のある方で主な回答として、特定の施設を利用しているためが15件、市内に適切な施設や空きがないためが14件ありました。

地域生活支援事業について、困っていることや改善してほしいことについては、障害のある方で「特に困っていることはない」の割合が46.4%と最も高いものの、次いで「サービス提供や内容に関する情報が少ない」の割合が18.9%となっています。障害のあるお子さんについては、「サービス事業者が少ない」の割合が43.4%と最も高く、次いで「サービス提供や内容に関する情報が少ない」の割合が37.9%、「サービス利用の手続きが大変」の割合が21.9%となっています。

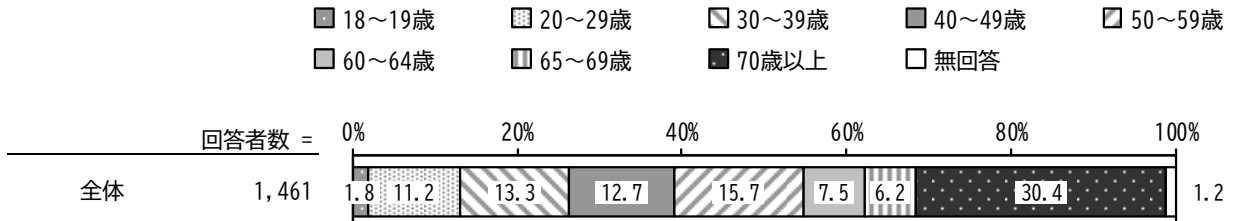


4 調査結果 ～対象者の属性について～

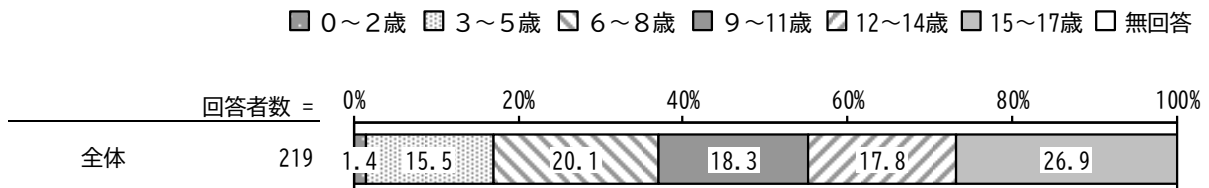
① 対象者の年齢及び学年

問 あなたの年齢をお答えください。(令和7年10月1日現在)【〇は1つだけ】

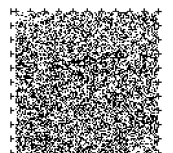
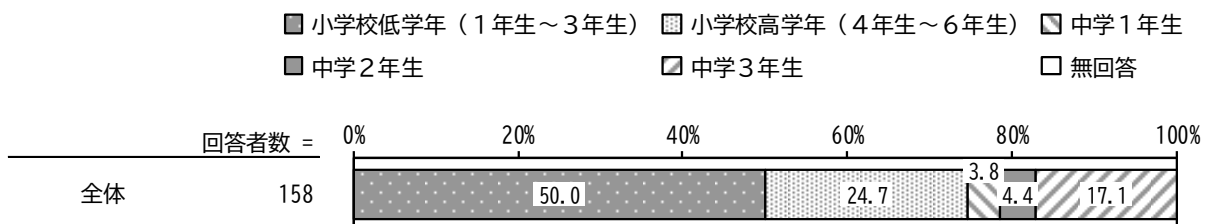
障害者調査では、「70歳以上」の割合が30.4%と最も高く、次いで「50～59歳」の割合が15.7%、「30～39歳」の割合が13.3%となっています。



障害児調査では、「15～17歳」の割合が26.9%と最も高く、次いで「6～8歳」の割合が20.1%、「9～11歳」の割合が18.3%となっています。



特別支援教育利用者調査では、「小学校低学年（1年生～3年生）」の割合が50.0%と最も高く、次いで「小学校高学年（4年生～6年生）」の割合が24.7%、「中学3年生」の割合が17.1%となっています。



② 同居している人

問 あなたはどなたと一緒に暮らしていますか。【〇はいくつでも】

障害者調査では、「配偶者（夫、妻）・パートナー」の割合が 33.4%と最も高く、次いで「母親」の割合が 29.3%、「父親」の割合が 21.9%となっています。

	調査数	ひとり暮らしをしている	配偶者（夫、妻）・パートナー	子ども	子どものパートナー	父親	母親	祖父母	兄弟・姉妹	親戚	間入所施設の職員や仲間	その他	無回答
全体	1,461	18.8	33.4	18.2	1.8	21.9	29.3	1.6	12.6	0.5	6.2	3.6	1.6

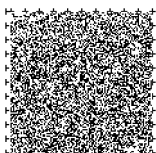
問 お子さんはどなたと一緒に暮らしていますか。お子さんから見た間柄でお答えください。【〇はいくつでも】

障害児調査では、「お母さん」の割合が 98.2%と最も高く、次いで「お父さん」の割合が 89.5%、「兄弟・姉妹」の割合が 63.0%となっています。

	調査数	お父さん	お母さん	おじいさん	おばあさん	兄弟・姉妹	親戚	入所施設の職員や仲間	その他	無回答
全体	219	89.5	98.2	3.2	6.8	63.0	0.5	0.0	0.9	0.0

特別支援教育利用者調査では、「お母さん」の割合が 96.2%と最も高く、次いで「お父さん」の割合が 85.4%、「兄弟・姉妹」の割合が 68.4%となっています。

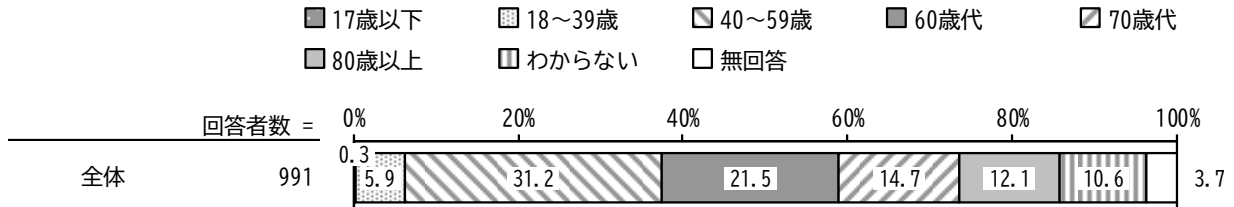
	調査数	お父さん	お母さん	おじいさん	おばあさん	兄弟・姉妹	親戚	入所施設の職員や仲間	その他	無回答
全体	158	85.4	96.2	3.2	5.1	68.4	0.6	1.3	0.6	0.0



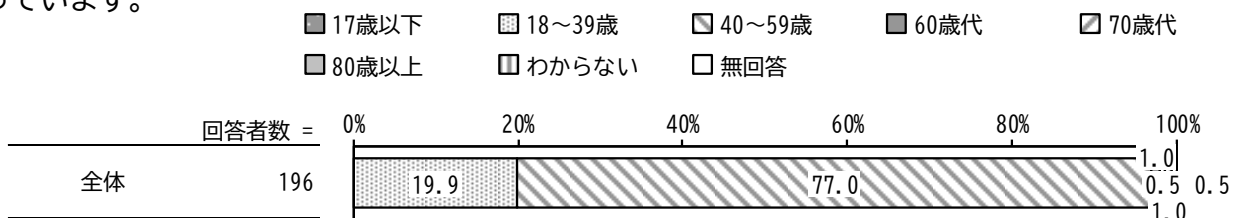
③ 介助・支援者の年齢

問 前設問で回答した主な介助者の方の年齢をお答えください。
 ※年齢がわからない場合は「わからない」に○をしてください。【○は1つだけ】

障害者調査では、「40～59歳」の割合が31.2%と最も高く、次いで「60歳代」の割合が21.5%、「70歳代」の割合が14.7%となっています。



障害児調査では、「40～59歳」の割合が77.0%と最も高く、次いで「18～39歳」の割合が19.9%となっています。

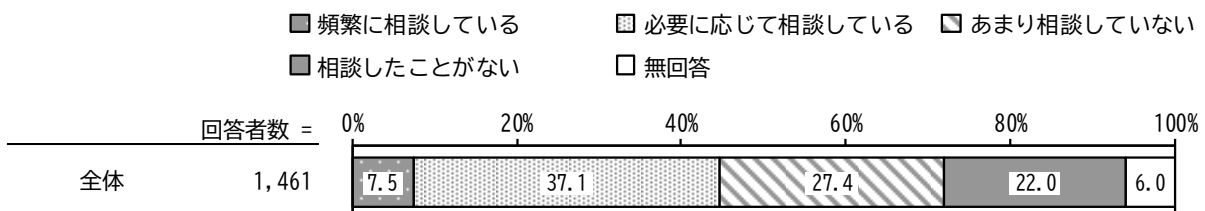


5 調査結果 ～相談支援、生活支援、教育について～

① 悩みや将来についての相談

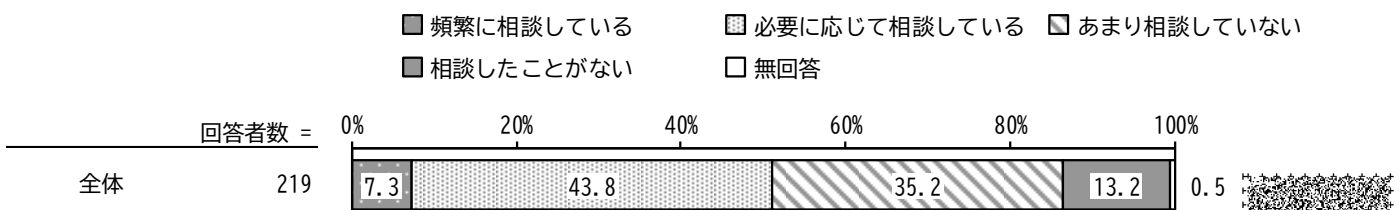
問 あなたは、自分の現在の悩みや将来について、親族や親戚と相談していますか。
 【○は1つだけ】

障害者調査では、「必要に応じて相談している」の割合が37.1%と最も高く、次いで「あまり相談していない」の割合が27.4%、「相談したことがない」の割合が22.0%となっています。



問 お子さんの成長や将来について、親族や親戚と相談していますか。【○は1つだけ】

障害児調査では、「必要に応じて相談している」の割合が43.8%と最も高く、次いで「あまり相談していない」の割合が35.2%、「相談したことがない」の割合が13.2%となっています。



② 親族以外の相談先

問 親族や親戚以外にあなたが悩みを相談している人や場所をお答えください。
【〇はいくつでも】

障害者調査では、「友人や知人」の割合が 22.3%と最も高く、次いで「病院や診療所」の割合が 21.1%、「障害福祉サービス事業所・施設の職員」の割合が 17.8%となっています。

調査数	市役所の相談窓口	市の相談窓口	市役所以外の障害福祉サービス事業所・施設の職員	障害福祉サービス事業所・施設の職員	介護保険サービスの事業所・施設の職員	職場や学校	病院や診療所	児童相談所	生	幼稚園や保育所の先生	民生委員・児童委員	社会福祉協議会の職員	障害者団体	友人や知人	その他	相談できない人や場所は特にならない	無回答
全体	1,461	7.0	3.5	17.8	6.0	8.4	21.1	0.0	0.1	0.2	1.1	1.5	22.3	7.3	25.3	11.6	

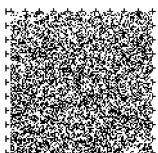
障害児調査では、「職場や学校」の割合が 46.6%と最も高く、次いで「病院や診療所」の割合が 44.7%、「障害福祉サービス事業所・施設の職員」の割合が 42.9%となっています。

調査数	市役所の相談窓口	市の相談窓口	市役所以外の障害福祉サービス事業所・施設の職員	障害福祉サービス事業所・施設の職員	職場や学校	病院や診療所	児童相談所	幼稚園や保育所の先生	民生委員・児童委員	社会福祉協議会の職員	障害者団体	友人や知人	その他	特にならない	無回答
全体	219	9.1	5.0	42.9	46.6	44.7	1.8	12.3	0.5	0.0	5.5	34.2	7.3	10.0	0.9

問 親族や親戚以外にお子さんの悩みを相談している人や場所をお答えください。
【〇はいくつでも】

特別支援教育利用者調査では、「学校の先生」の割合が 71.5%と最も高く、次いで「友人や知人」の割合が 44.3%、「病院・診療所」の割合が 41.8%となっています。

調査数	学校の先生	スクールカウンセラー	西東京市子ども相談室ほつとルーム	教育相談	児童発達支援センター・ひいらぎ	子ども家庭支援センター・のどか	市役所の福祉相談窓口	基幹相談支援センター・えぼつく	病院・診療所	児童相談所	保健センター（保健師など）	民生委員・児童委員	社会福祉協議会の職員	家族会や障害者団体	友人や知人	その他	相談できるところは特にならない	誰かに相談することはまれである	無回答
全体	158	71.5	16.5	1.9	10.8	6.3	0.0	1.3	0.6	41.8	1.9	0.0	0.0	3.2	44.3	12.7	1.3	8.2	1.9



③ 福祉サービスの利用状況

問 あなた(お子さん)は、次の障害福祉サービスを過去1年間に利用したことがありますか。利用したことがあるサービスに○をつけてください。【○はいくつでも】

障害者調査では、「利用したことがない」の割合が59.1%と最も高く、次いで「就労継続支援(A型・B型)」の割合が10.7%となっています。

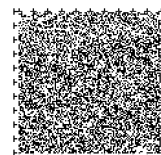
	調査数	訪問系サービス	生活介護	自立訓練(機能訓練・生活訓練)	就労移行支援	就労継続支援(A型・B型)	就労定着支援	療養介護	短期入所(ショートステイ)	共同生活援助(グループホーム)	施設入所支援	自立生活援助	相談支援	利用したことがない	無回答
全体	1,461	8.9	6.0	2.5	3.1	10.7	3.5	1.0	4.3	6.0	1.3	1.6	9.6	59.1	6.7

障害児調査では、「放課後等デイサービス」の割合が56.2%と最も高く、次いで「相談支援」の割合が33.8%、「児童発達支援」の割合が28.8%となっています。

	調査数	訪問系サービス	短期入所(ショートステイ)	相談支援	児童発達支援	放課後等デイサービス	居宅訪問型児童発達支援	保育所等訪問支援	入所系サービス	利用したことがない	無回答
全体	219	9.6	7.8	33.8	28.8	56.2	0.5	2.7	0.0	23.3	0.5

特別支援教育利用者調査では、「利用したことがない」の割合が63.3%と最も高く、次いで「放課後等デイサービス」の割合が22.8%、「児童発達支援」の割合が13.3%となっています。

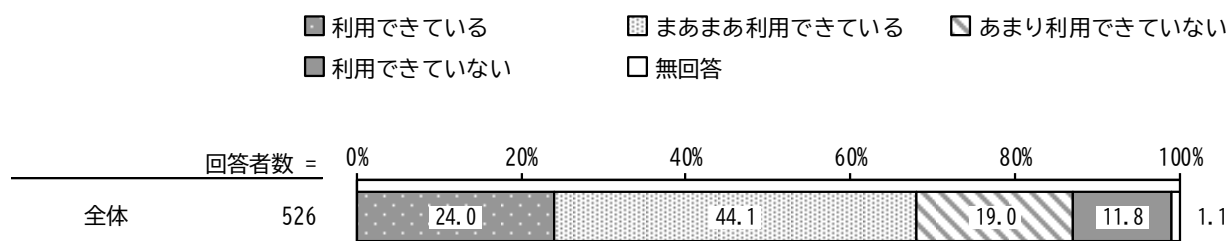
	調査数	訪問系サービス	短期入所(ショートステイ)	相談支援	児童発達支援	放課後等デイサービス	居宅訪問型児童発達支援	保育所等訪問支援	入所系サービス	移動支援	日中一時支援	利用したことがない	無回答
全体	158	0.6	0.0	10.1	13.3	22.8	1.3	1.9	0.0	0.0	0.0	63.3	0.0



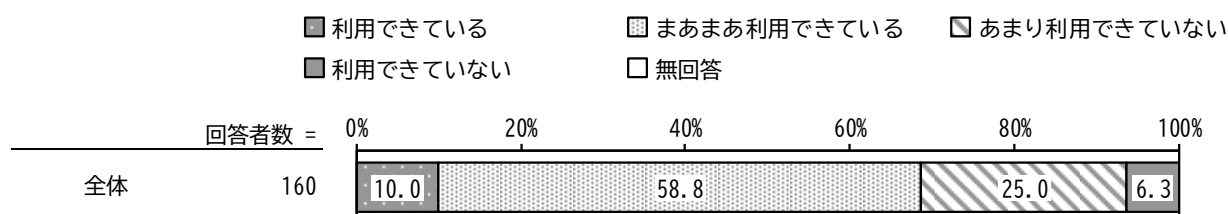
④ 福祉サービスを十分利用できているか

問 あなた（お子さん）は、生活に必要な障害福祉サービスを十分に利用できていますか。
【〇は1つだけ】

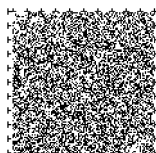
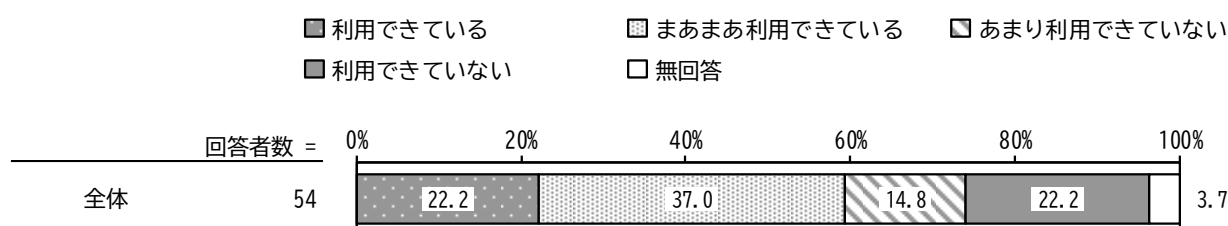
障害者調査では、「利用できている」「まあまあ利用できている」を合わせた“利用できている”の割合が 68.1%、「あまり利用できていない」「利用できていない」を合わせた“利用できていない”の割合が 30.8%となっています。



障害児調査では、「まあまあ利用できている」の割合が 58.8%と最も高く、次いで「あまり利用できていない」の割合が 25.0%、「利用できている」の割合が 10.0%となっています



特別支援教育利用者調査では、「まあまあ利用できている」の割合が 37.0%と最も高く、次いで「利用できている」、「利用できていない」の割合が 22.2%となっています。



⑤ 地域生活への移行を考えている西東京市の入所者

問 貴事業所の利用者で、西東京市が援護の実施者となっている方のうち、地域生活への移行を希望している方はいますか。いる場合はその人数もお答えください。【〇は1つだけ】

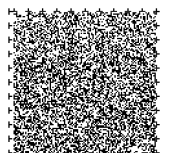
施設入所者調査では、「いる」の割合が12.9%、「いない」の割合が83.9%となっています。対象者別にみると、項目間で比べ、『身体障害者』で「いる」の割合が高くなっています。所在地別にみると、項目間で比べ、『東京都外』で「いない」の割合が高くなっています。地域移行実績別にみると、項目間で比べ、『ない』で「いない」の割合が高くなっています。いる場合「1人」が3件、「2人以上」が1件となっています。

【移行の有無】

		調査数	いる	いない	無回答
全体		31	12.9	83.9	3.2
対象者	身体障害者	11	27.3	72.7	0.0
	知的障害者	26	11.5	84.6	3.8
	精神障害者	5	0.0	100.0	0.0
	重症心身障害者	4	0.0	100.0	0.0
	その他	13	23.1	76.9	0.0
所在地	東京都内	14	21.4	71.4	7.1
	東京都外	17	5.9	94.1	0.0
地域移行実績	ある	14	21.4	78.6	0.0
	ない	17	5.9	88.2	5.9

【属性別】

		調査数	1人	2人以上	無回答
全体		4	75.0	25.0	0.0
対象者	身体障害者	3	100.0	0.0	0.0
	知的障害者	3	66.7	33.3	0.0
	精神障害者	0	0.0	0.0	0.0
	重症心身障害者	0	0.0	0.0	0.0
	その他	3	66.7	33.3	0.0
所在地	東京都内	3	66.7	33.3	0.0
	東京都外	1	100.0	0.0	0.0
地域移行実績	ある	3	100.0	0.0	0.0
	ない	1	0.0	100.0	0.0



⑥ 地域生活への移行の課題

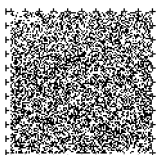
問 利用者の地域生活への移行を進める上での課題と思うことについてお答えください。
【〇はいくつでも】

施設入所者調査では、「利用者本人のニーズ把握」の割合が71.0%と最も高く、次いで「利用者家族の高齢化」の割合が67.7%、「移行後の住まいの確保」の割合が64.5%となっています。

所在地別にみると、項目間で比べ、『東京都内』で「利用者本人のニーズ把握」「利用者家族の高齢化」「移行後の住まいの確保」「相談支援機関との連携」の割合が高く、『東京都外』で「重症心身障害者の増加」「移行後の利用者の収入確保」「福祉サービス事業者への引継ぎ」「移行先の地方自治体との連携」「地域における障害への理解促進」の割合が高くなっています。

地域移行実績別にみると、項目間で比べ、『ある』で「地域移行支援の認知度」「相談支援機関との連携」の割合が高く、『ない』で「利用者家族の高齢化」「移行後の利用者の収入確保」「福祉サービス事業者への引継ぎ」「医療機関との連携」「移行先の地方自治体との連携」「地域における障害への理解促進」の割合が高くなっています。

		調査数	利用者本人のニーズ把握	重症心身障害者の増加	利用者家族の高齢化	地域移行支援の認知度	移行後の利用者の収入確保	移行後の住まいの確保	福祉サービス事業者への引継ぎ	医療機関との連携	相談支援機関との連携	移行先の地方自治体との連携	地域における障害への理解促進	その他	無回答
全体		31	71.0	9.7	67.7	29.0	25.8	64.5	32.3	41.9	61.3	35.5	38.7	6.5	0.0
所在地	東京都内	14	85.7	0.0	71.4	28.6	14.3	71.4	28.6	42.9	71.4	28.6	28.6	14.3	0.0
	東京都外	17	58.8	17.6	64.7	29.4	35.3	58.8	35.3	41.2	52.9	41.2	47.1	0.0	0.0
地域移行実績	ある	14	71.4	7.1	57.1	35.7	21.4	64.3	21.4	28.6	64.3	21.4	35.7	14.3	0.0
	ない	17	70.6	11.8	76.5	23.5	29.4	64.7	41.2	52.9	58.8	47.1	41.2	0.0	0.0



⑦ 学校生活で困っていること

問 幼稚園、保育所、学校などでの生活で困っていることをお答えください。【〇はいくつでも】

障害児調査では、「通うための付き添いの負担が大きい」の割合が27.4%と最も高く、次いで「学力がついていけない」の割合が13.2%となっています。

調査数	負担が大きい付き添いの	トイレなどのバリアフリー設備が不十分	仲間外れにされる	障害を理由にイジメや	慮が足りない	先生や職員の理解や配	解が得られない	周囲の児童・生徒の理	体力がついていけない	学力がついていけない	の居場所がない	体調が悪くなったとき	介助体制が十分でない	医療的なケアが受けられない	その他	特に困っていることは	無回答
全体	219	27.4	3.7	3.2	9.1	5.9	8.7	13.2	5.9	5.0	0.9	16.0	40.2	3.2	(%)		

特別支援教育利用者調査では、「まわりの児童・生徒とコミュニケーションがうまくできない」の割合が22.2%と最も高く、次いで「学校での支援体制が十分でない」の割合が13.3%、「友達ができない」の割合が10.1%となっています。

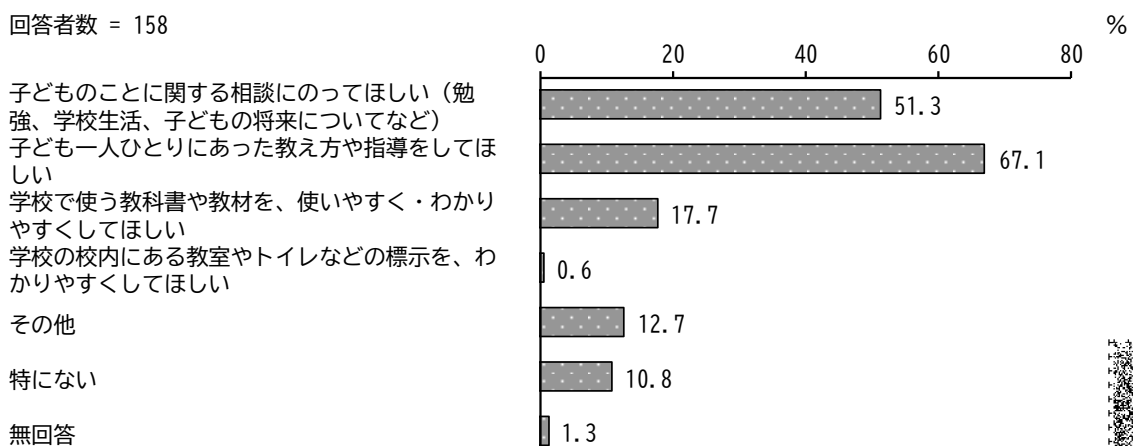
調査数	授業の内容がわからない	特別支援教室・特別支援学級の	学校での支援体制が十分でない	先生や学校職員の理解や配慮	まわりの児童・生徒の理解が	得られない	まわりの児童・生徒とコミュニケーションがうまくできない	友達ができない	放課後や長期休暇（夏休みなど）の居場所がない	学校に通うことに抵抗を持っている	その他	特に困っていることはない	無回答
全体	158	6.3	13.3	7.0	5.7	22.2	10.1	7.6	8.2	10.1	46.8	1.3	(%)

⑧ 学校教育への要望

問 ご家族（お世話などをしている方）として、学校教育にどのようなことを望んでいますか。【〇はいくつでも】

特別支援教育利用者調査では、「子ども一人ひとりにあった教え方や指導をしてほしい」の割合が67.1%と最も高く、次いで「子どものことに関する相談にのってほしい（勉強、学校生活、子どもの将来についてなど）」の割合が51.3%、「学校で使う教科書や教材を、使いやすく・わかりやすくしてほしい」の割合が17.7%となっています。

回答者数 = 158

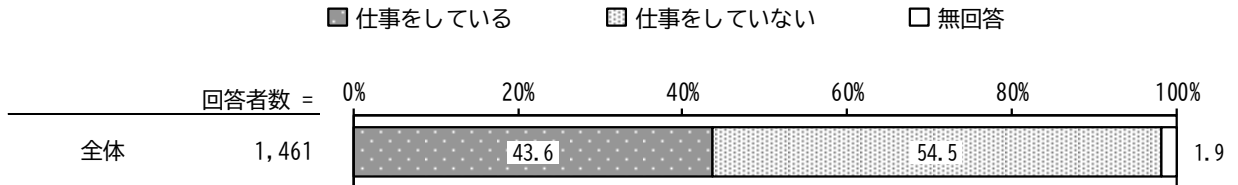


6 調査結果 ～雇用・就業、余暇活動について～

① 収入を伴う仕事の実施状況

問 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。

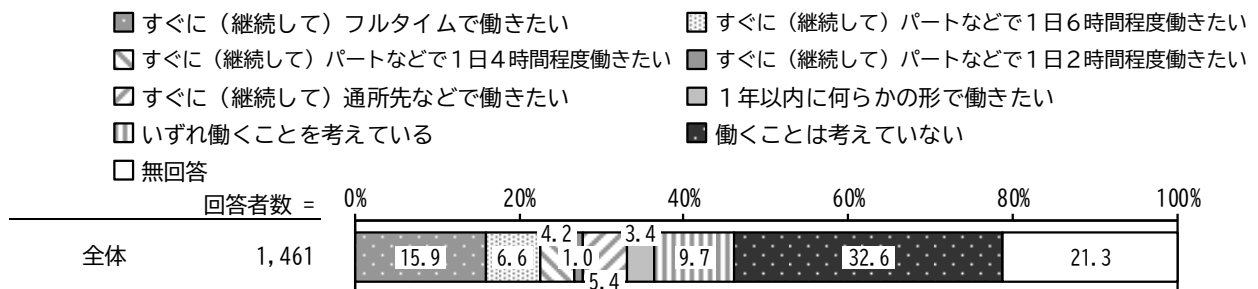
障害者調査では、「仕事をしている」の割合が43.6%、「仕事をしていない」の割合が54.5%となっています。



② 今後の就労意向

問 今後の就労意向についてお答えください。【○は1つだけ】

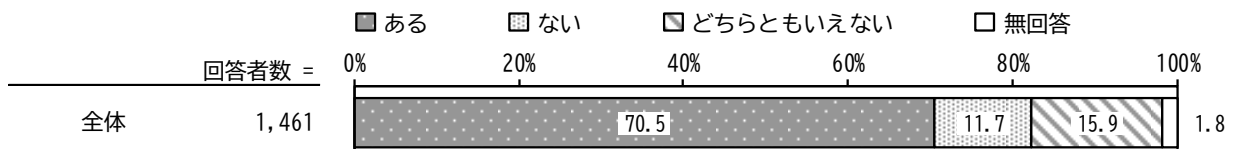
障害者調査では、「働くことは考えていない」の割合が32.6%と最も高く、次いで「すぐに（継続して）フルタイムで働きたい」の割合が15.9%となっています。



③ 趣味や楽しいことの有無

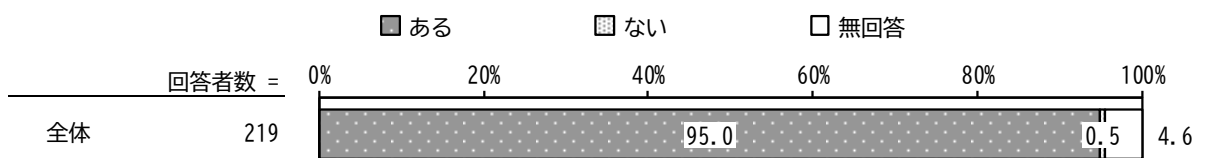
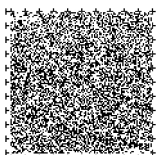
問 あなたには、趣味や楽しみがありますか。【○は1つだけ】

障害者調査では、「ある」の割合が70.5%、「ない」の割合が11.7%、「どちらともいえない」の割合が15.9%となっています。



問 お子さんは普段の生活の中で楽しいことはありますか。【○は1つだけ】

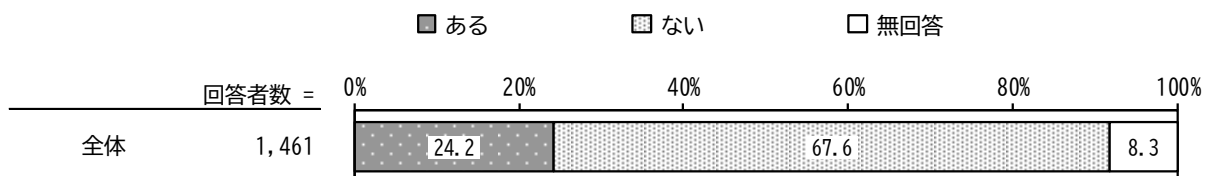
障害児調査では、「ある」の割合が95.0%、「ない」の割合が0.5%となっています。



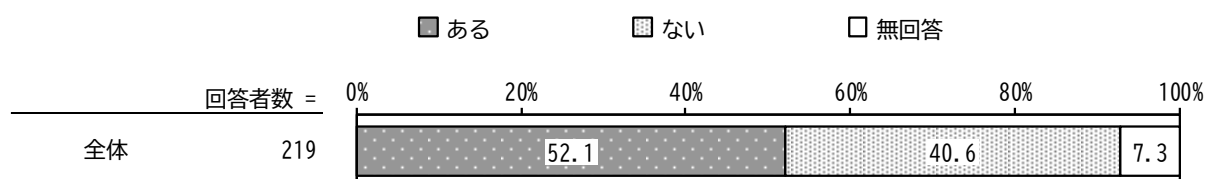
④ 自宅以外に居心地のいい場所

問 あなたには、西東京市内に自宅以外で居心地のいい場所がありますか。

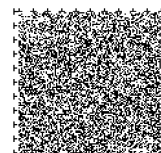
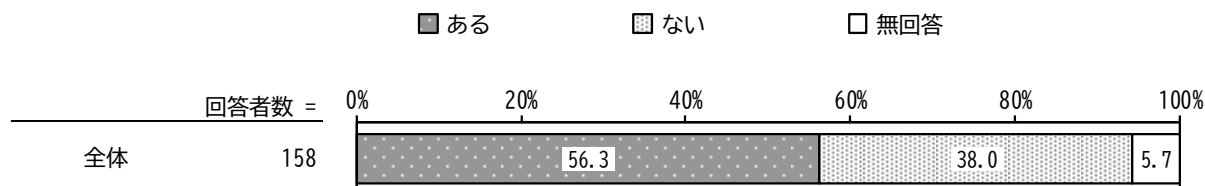
障害者調査では、「ある」の割合が24.2%、「ない」の割合が67.6%となっています。



障害児調査では、「ある」の割合が52.1%、「ない」の割合が40.6%となっています。



特別支援教育利用者調査では、「ある」の割合が56.3%、「ない」の割合が38.0%となっています。

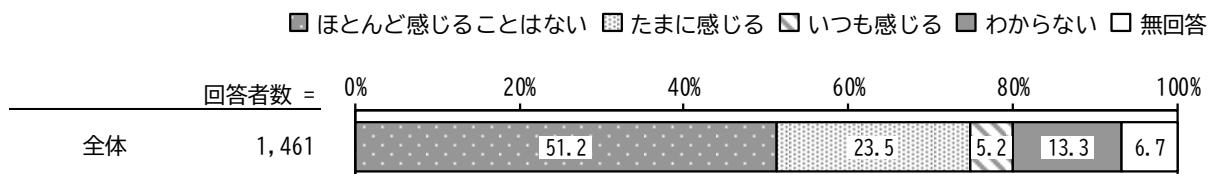


7 調査結果 ～啓発、生活環境、保健・医療、情報について～

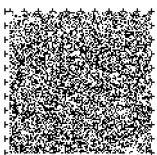
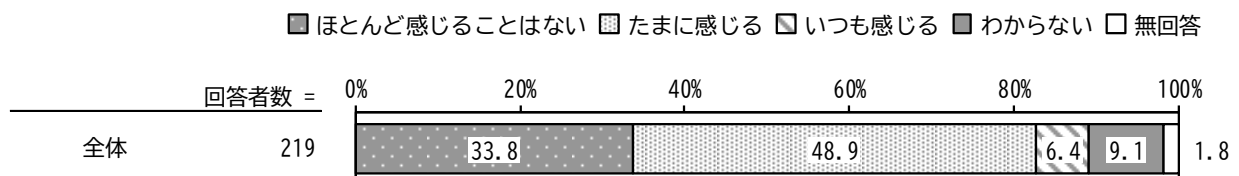
① 差別・偏見を感じたことがあるか

問 あなたはこの1年間で障害を理由とした差別や偏見を受けたり、嫌な思いを感じたことはありますか。【○は1つだけ】

障害者調査では、「ほとんど感じることはない」の割合が51.2%、「たまに感じる」の割合が23.5%、「いつも感じる」の割合が5.2%となっています。



障害児調査では、「ほとんど感じることはない」の割合が33.8%、「たまに感じる」の割合が48.9%、「いつも感じる」の割合が6.4%となっています。



② 差別・偏見を受けた場所

問 この1年間で差別や偏見を受けたり、嫌な思いを感じた場所をお答えください。
【〇はいくつでも】

障害者調査では、「バスや電車などの交通機関」の割合が42.1%と最も高く、次いで「スーパーやレストラン」の割合が23.1%、「学校や職場」の割合が20.5%となっています。

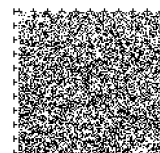
調査数	学校や職場	市役所などの公的機関	病院などの医療機関	障害福祉サービス事業所・施設	介護保険サービス事業所・施設	スーパーやレストラン	バスや電車などの交通機関	面接などの就職活動の場	余暇活動の場	その他	無回答	
全体	420	20.5	10.5	14.5	6.0	1.2	23.1	42.1	11.2	15.7	13.8	5.2 (%)

障害児調査では、「バスや電車などの交通機関」の割合が55.4%と最も高く、次いで「スーパーやレストラン」の割合が53.7%、「保育所や幼稚園、学校」の割合が24.8%となっています。

調査数	保育所や幼稚園、学校	市役所などの公的機関	病院などの医療機関	障害福祉サービス事業所・施設	スーパーやレストラン	バスや電車などの交通機関	習い事	その他	無回答
全体	121	24.8	6.6	14.9	7.4	53.7	9.1	18.2	0.0 (%)

特別支援教育利用者調査では、「保育所や幼稚園、学校」の割合が57.1%と最も高く、次いで「習い事」の割合が22.9%、「スーパーやレストラン」の割合が17.1%となっています。

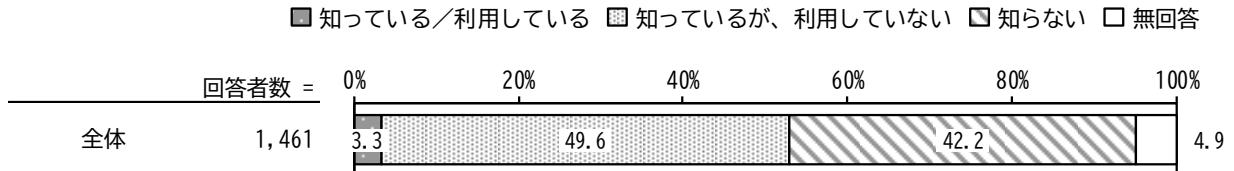
調査数	保育所や幼稚園、学校	市役所などの公的機関	病院などの医療機関	障害福祉サービス事業所・施設	スーパーやレストラン	バスや電車などの交通機関	習い事	その他	無回答	
全体	35	57.1	0.0	5.7	2.9	17.1	11.4	22.9	20.0	2.9 (%)



③ 成年後見制度の認知

問 あなたは、成年後見制度を知っていますか。【○は1つだけ】

障害者調査では、「知っている／利用している」の割合が 3.3%、「知っているが、利用していない」の割合が 49.6%、「知らない」の割合が 42.2%となっています。

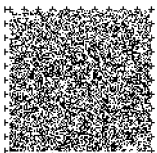


④ 成年後見制度を利用する理由

問 どのようなことが理由で成年後見制度を利用していますか、もしくは将来的に利用することになると思いますか。【○はいくつでも】

障害者調査では、「預貯金などの管理・解約」の割合が 35.5%と最も高く、次いで「将来的にも利用することはない」の割合が 35.0%、「福祉サービスの契約（ホームヘルパーや施設利用等のため）」の割合が 25.5%となっています。

調査数	預貯金などの管理・解約	福祉サービスの契約（ホームヘルパーや施設利用等のため）	不動産の処分	相続手続き	保険金受取	訴訟手続き	親等の主たる介護者が高齢等のため支援が難しくなった	その他	将来的にも利用することはない	無回答
全体 772	35.5	25.5	14.8	23.8	14.0	4.4	17.9	5.8	35.0	9.8 (%)



⑤ 災害で不安なこと

問 地震や台風などの災害が起こったときの不安なことをお答えください。
【〇はいくつでも】

障害者調査では、「避難所での他人とのコミュニケーション」の割合が 31.0%と最も高く、次いで「避難所の場所がわからない」の割合が 23.8%、「災害や避難の情報の入手方法がわからない」の割合が 19.8%となっています。

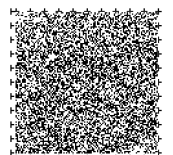
調査数	い避難所の場所がわからない	災害や避難の情報の入手方法がわからない	避難時に介助してくれる人がいない	助けを呼ぶための手段がない	避難所で十分な医療的ケアが受けられない	障害の特性上、避難所にいることが困難	避難所での他人とのコミュニケーション	その他	特にない	無回答	
全体	1,461	23.8	19.8	12.9	12.1	16.5	18.0	31.0	5.7	25.3	7.9

障害児調査では、「障害の特性上、避難所にいることが困難」の割合が 49.3%と最も高く、次いで「避難所での他人とのコミュニケーション」の割合が 46.1%、「避難時に介助してくれる人がいない」の割合が 29.7%となっています。

調査数	い避難所の場所がわからない	災害や避難の情報の入手方法がわからない	避難時に介助してくれる人がいない	助けを呼ぶための手段がない	避難所で十分な医療的ケアが受けられない	障害の特性上、避難所にいることが困難	避難所での他人とのコミュニケーション	その他	特にない	無回答	
全体	219	17.8	19.2	29.7	14.6	13.7	49.3	46.1	12.3	10.5	0.5

特別支援教育利用者調査では、「避難所での他人とのコミュニケーション」の割合が 39.9%と最も高く、次いで「災害や避難の情報の入手方法がわからない」の割合が 19.0%、「障害の特性上、避難所にいることが困難」の割合が 17.1%となっています。

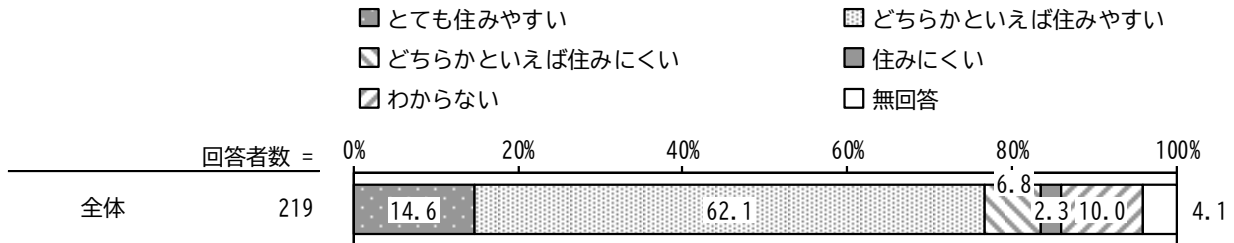
調査数	避難所の場所がわからない	災害や避難の情報の入手方法がわからない	避難時に介助してくれる人がいない	助けを呼ぶための手段がない	避難所で十分な医療的ケアが受けられない	障害の特性上、避難所にいることが困難	避難所での他人とのコミュニケーション	その他	特にない	無回答	
全体	158	9.5	19.0	3.8	3.8	3.8	17.1	39.9	5.7	38.6	0.6



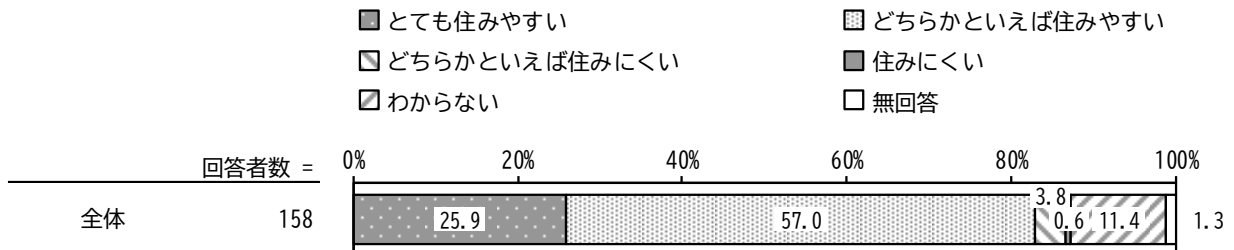
⑥ 西東京市の住みやすさ

問 西東京市は住みやすいまちだと思いますか。【○は1つだけ】

障害児調査では、「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた“住みやすい”の割合が76.7%、「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」を合わせた“住みにくい”の割合が9.1%となっています。



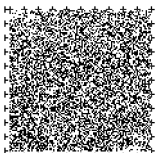
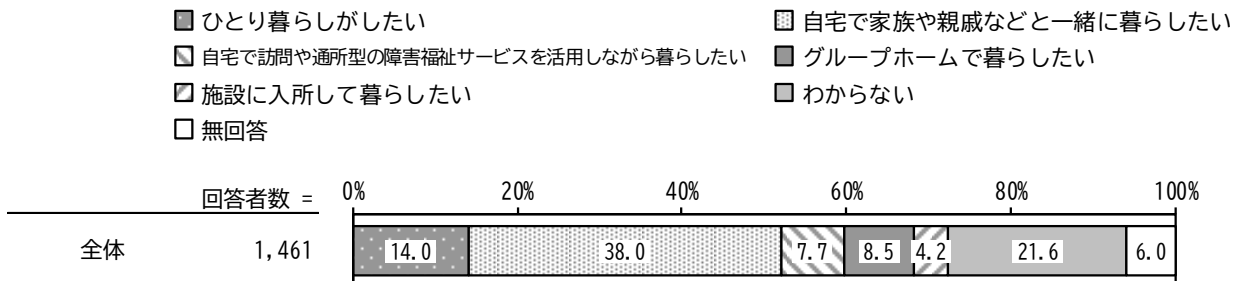
特別支援教育利用者調査では、「どちらかといえば住みやすい」の割合が57.0%と最も高く、次いで「とても住みやすい」の割合が25.9%となっています。



⑦ 5年後どのように暮らしたいか

問 今から5年後にあなたはどのように暮らしたいですか。最も近いイメージをお答えください。【○は1つだけ】

障害者調査では、「自宅で家族や親戚などと一緒に暮らしたい」の割合が38.0%と最も高く、次いで「ひとり暮らしがしたい」の割合が14.0%となっています。



⑧ 障害について

問 次のうち、あてはまるものに○をつけてください。【○はいくつでも】

障害者調査では、「愛の手帳（療育手帳）を持っている」の割合が52.0%と最も高く、次いで「身体障害者手帳を持っている」の割合が35.9%、「精神障害者保健福祉手帳を持っている」、「訪問看護などの医療的ケアを受けている」の割合が27.7%となっています。

調査数	身体障害者手帳を持っている	愛の手帳（療育手帳）を持っている	精神障害者保健福祉手帳を持っている	自立支援医療費制度（精神通院医療）を受けている	難病医療費等助成対象疾病を患っている	高次脳機能障害と診断されたことがある	発達障害と診断されたことがある	訪問看護などの医療的ケアを受けている	強度行動障害と言われたことがある	どれにもあてはまらない	無回答	
全体	1,461	35.9	52.0	27.7	24.9	10.1	1.9	10.8	27.7	1.2	1.0	0.8 (%)

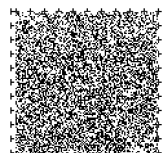
問 次のうち、お子さんにあてはまるものに○をつけてください。手帳をお持ちの方は等級・程度についても○をつけてください。【○はいくつでも】

障害児調査では、「愛の手帳（療育手帳）を持っている」の割合が79.5%と最も高く、次いで「発達障害と診断されたことがある」の割合が45.2%、「身体障害者手帳を持っている」の割合が29.2%となっています。

調査数	身体障害者手帳を持っている	愛の手帳（療育手帳）を持っている	精神障害者保健福祉手帳を持っている	自立支援医療費制度（精神通院医療）を受けている	難病医療費等助成対象疾病を患っている	高次脳機能障害と診断されたことがある	発達障害と診断されたことがある	訪問看護などの医療的ケアを受けている	強度行動障害と言われたことがある	どれにもあてはまらない	無回答	
全体	219	29.2	79.5	6.8	0.0	6.4	0.5	45.2	12.8	1.4	0.0	0.0 (%)

特別支援教育利用者調査では、「発達障害と診断されたことがある」の割合が53.8%と最も高く、次いで「どれにもあてはまらない」の割合が37.3%、「愛の手帳（療育手帳）を持っている」の割合が14.6%となっています。

調査数	身体障害者手帳を持っている	愛の手帳（療育手帳）を持っている	精神障害者保健福祉手帳を持っている	自立支援医療費制度（精神通院医療）を受けている	難病医療費等助成対象疾病を患っている	高次脳機能障害と診断されたことがある	発達障害と診断されたことがある	訪問看護などの医療的ケアを受けている	強度行動障害と言われたことがある	どれにもあてはまらない	無回答	
全体	158	1.3	14.6	7.0	0.6	0.6	0.0	53.8	5.1	0.0	37.3	1.9 (%)



⑨ 自宅での医療的ケア

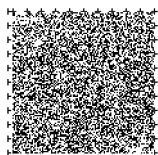
問 現在、自宅で行っている医療的ケアについてお答えください。【〇はいくつでも】

障害者調査では、「リハビリテーション」の割合が14.4%と最も高くなっています。

調査数	注射・点滴	自己注射	リハビリテーション	経管栄養	気管切開（それに伴う処置）	褥瘡処置	吸引器使用	ネブライザー使用	膀胱カテーテル	自己導尿	人工透析	酸素吸入器	人工呼吸器装着	その他	特になし	無回答	
全体	404	1.0	4.0	14.4	1.0	0.5	2.2	1.7	0.5	1.0	0.2	2.2	1.7	0.5	17.8	55.0	5.0

障害児調査では、「リハビリテーション」の割合が28.6%と最も高く、次いで「経管栄養」の割合が25.0%、「吸引器使用」の割合が17.9%となっています。

調査数	注射・点滴	自己注射	リハビリテーション	経管栄養	気管切開（それに伴う処置）	褥瘡処置	吸引器使用	ネブライザー使用	膀胱カテーテル	自己導尿	人工透析	酸素吸入器	人工呼吸器装着	その他	特になし	無回答	
全体	28	0.0	0.0	28.6	25.0	7.1	7.1	17.9	10.7	0.0	3.6	0.0	7.1	14.3	14.3	32.1	3.6



⑩ 福祉サービス情報の入手先

問 福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。【〇はいくつでも】

障害者調査では、「市の広報紙」の割合が40.6%と最も高く、次いで「家族や親戚」の割合が19.8%、「障害者のしおり（市が作成した冊子）」の割合が18.1%となっています。

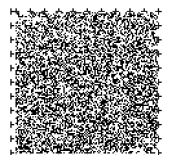
調査数	障害者のしおり（市が作成した冊子）	市の広報紙	市のホームページやSNS	都の広報紙やホームページ	その他の広報紙やインターネット、SNS	テレビ・ラジオ・新聞のニュース	障害者団体	職場や学校	障害福祉サービス事業所・施設	病院・診療所	図書館の障害のある方向けサービス	民生委員・児童委員	自治会や町内会の回覧板	市内にある掲示板	家族や親戚	友人や知人	その他	特になし	無回答	
全体	1,461	18.1	40.6	13.9	10.8	8.0	14.9	4.0	4.7	17.8	15.7	0.6	0.5	1.0	1.4	19.8	9.3	2.9	15.3	5.7

障害児調査では、「市の広報紙」の割合が45.7%と最も高く、次いで「学校や職場」の割合が44.7%、「障害者のしおり（市が作成した冊子）」の割合が38.4%となっています。

調査数	障害者のしおり（市が作成した冊子）	市の広報紙	市のホームページやSNS	都の広報紙やホームページ	その他の広報紙やインターネット、SNS	テレビ・ラジオ・新聞のニュース	障害者団体	学校や職場	障害福祉サービス事業所・施設	病院・診療所	図書館の障害のある方向けサービス	民生委員・児童委員	自治会や町内会の回覧板	市内にある掲示板	家族や親戚	友人や知人	その他	特になし	無回答	
全体	219	38.4	45.7	26.0	6.8	15.1	6.4	18.3	44.7	37.4	16.0	0.5	0.5	0.5	1.4	9.1	30.6	5.5	4.6	0.9

特別支援教育利用者調査では、「学校」の割合が42.4%と最も高く、次いで「市の広報紙」の割合が30.4%、「市のホームページやSNS」の割合が24.7%となっています。

調査数	障害者のしおり（市が作成した冊子）	市の広報紙	市のホームページやSNS	都の広報紙やホームページ	その他の広報紙やインターネット、SNS	テレビ・ラジオ・新聞のニュース	障害者団体	学校	障害福祉サービス事業所・施設	病院・診療所	図書館の障害のある方向けサービス	民生委員・児童委員	自治会や町内会の回覧板	市内にある掲示板	家族や親戚	友人や知人	その他	特になし	無回答
全体	158	5.7	30.4	24.7	3.8	11.4	1.3	42.4	5.7	16.5	0.0	0.0	0.0	1.3	4.4	20.9	3.8	20.3	1.3

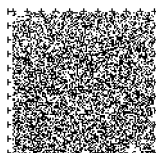


⑪ 情報取得やコミュニケーションをとる際に困ること

問 普段の生活の中で情報を取得したりコミュニケーションをとる際に困っていることをお答えください。【〇はいくつでも】

障害者調査では、「困っていることを周りに伝えられない」の割合が22.9%と最も高く、次いで「周囲との意思疎通がとりづらい」の割合が20.7%、「緊急時や災害時の情報が入りにくい」の割合が14.2%となっています。

	調査数	点字、音が少ない	点字、音声の出版物	公的な場での音声案内が不足している	公的場での音声案内が不足している	手話や要約筆記が足りない	公共施設の案内表示がわからない	インターネットが利用しにくい	インターネットが利用しにくい	周囲との意思疎通がとりにくい	周囲との意思疎通がとりにくい	困っていることを周りに伝えられない	緊急時や災害時の情報が入りにくい	郵便物の重要度がわからない	その他	特になし	無回答
全体	1,461	0.4	1.9	0.8	5.3	8.4	20.7	22.9	14.2	10.3	4.2	43.6	10.8				(%)

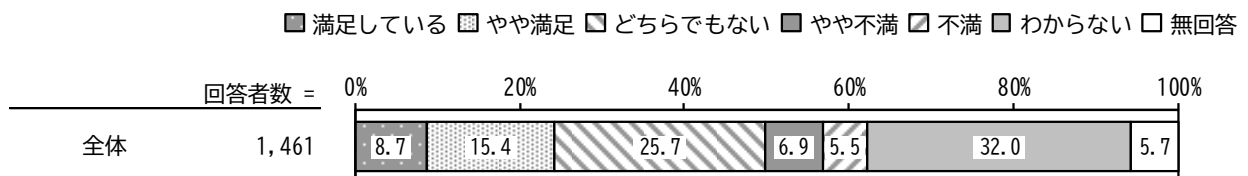


8 調査結果 ～施策の満足度、充実させるべき施策について～

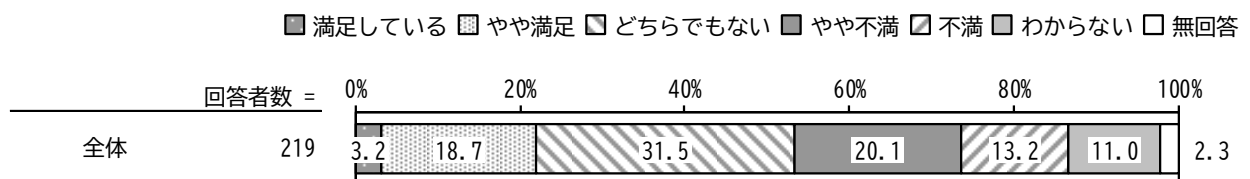
① 障害者施策に満足しているか

問 あなたは、西東京市の障害者施策全般について、総合的に満足していますか。
【○は1つだけ】

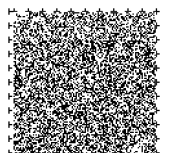
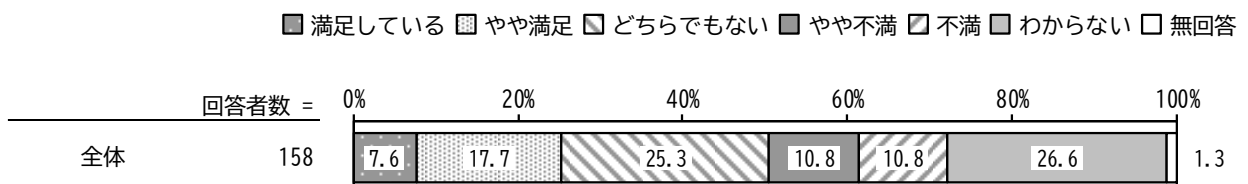
障害者調査では、「満足している」「やや満足」を合わせた“満足している”の割合が24.1%、「やや不満」「不満」を合わせた“不満”の割合が12.4%となっています。



障害児調査では、「満足している」「やや満足」を合わせた“満足している”の割合が21.9%、「やや不満」「不満」を合わせた“不満”の割合が33.3%となっています。



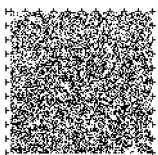
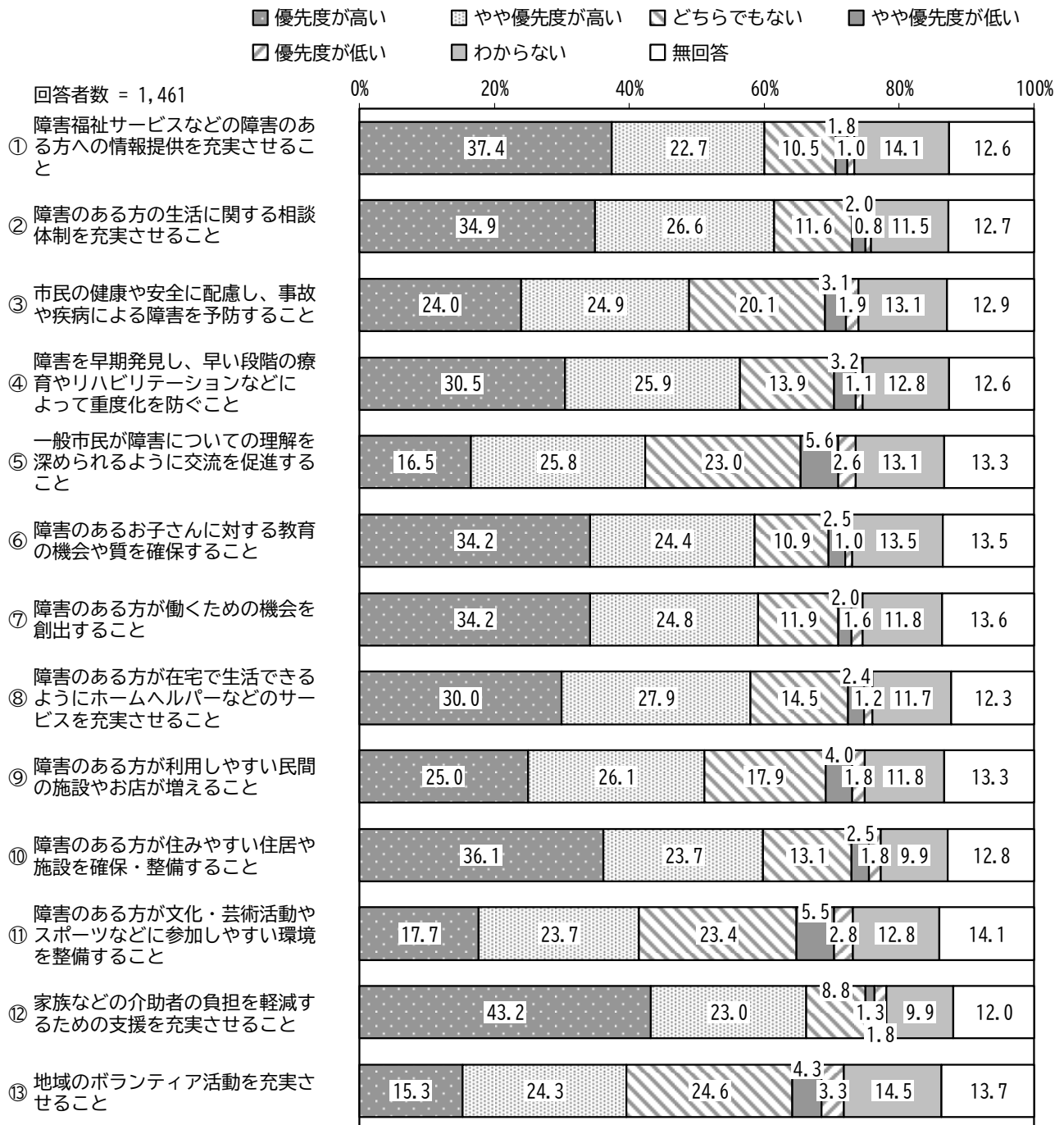
特別支援教育利用者調査では、「満足している」「やや満足」を合わせた“満足している”の割合が25.3%、「やや不満」「不満」を合わせた“不満”の割合が21.6%となっています。



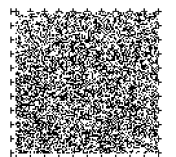
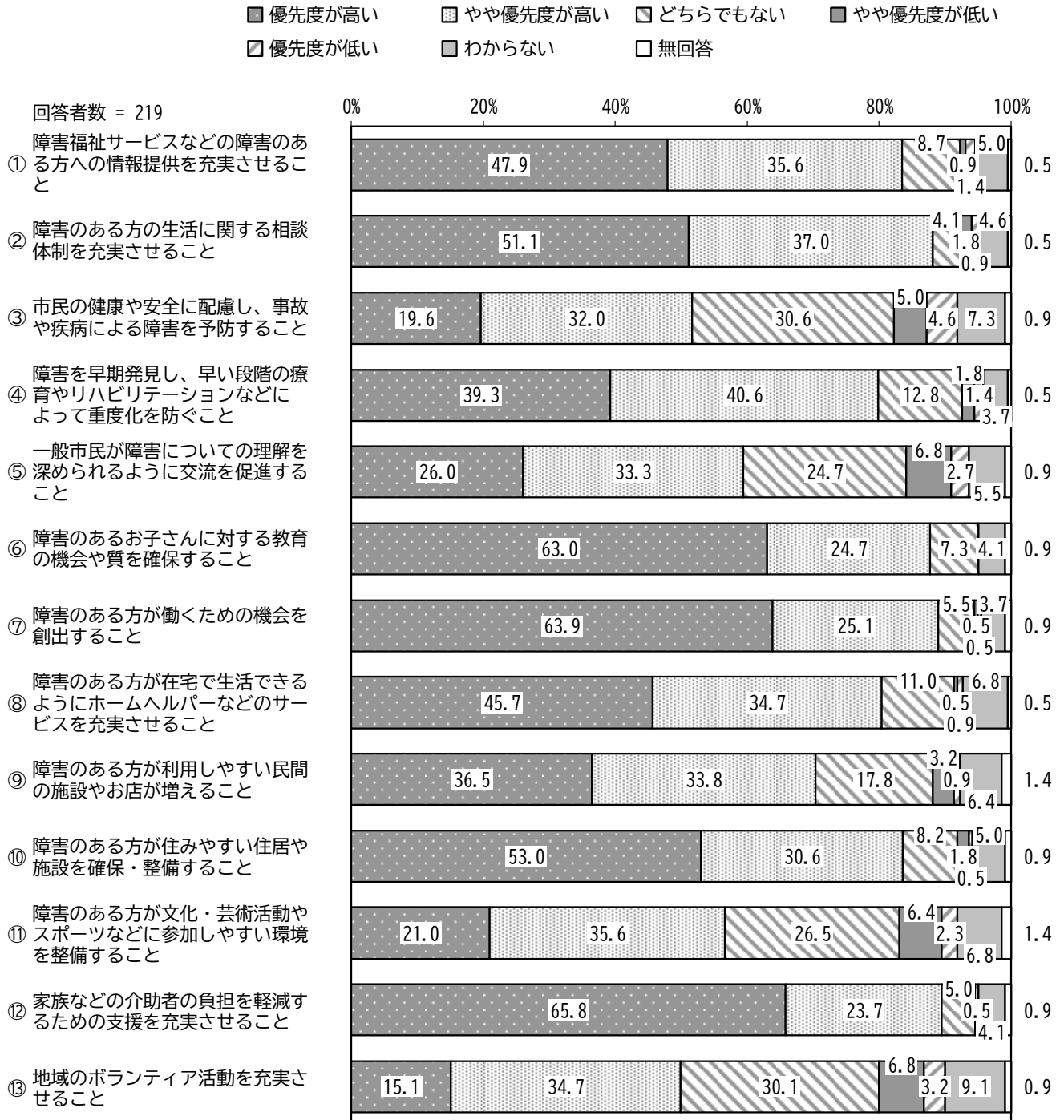
② 障害者施策で充実させること

問 今後、障害者施策を進めていくにあたって、西東京市は特にどのようなことを充実させていけばよいか、各項目の優先度についてお答えください。【〇はそれぞれに1つずつ】

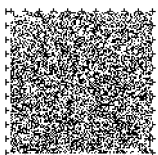
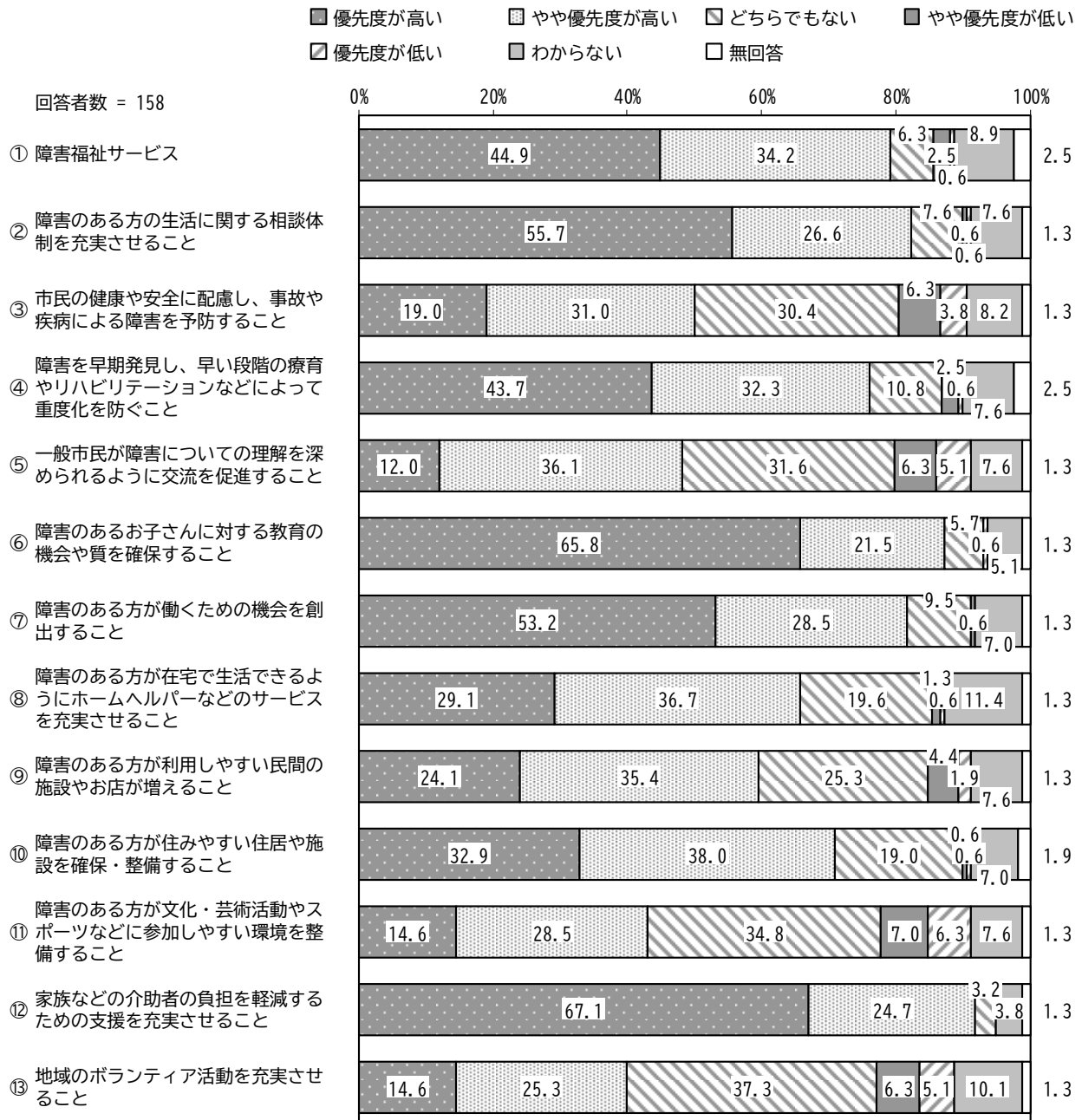
障害者調査では、『⑫ 家族などの介助者の負担を軽減するための支援を充実させること』で「優先度が高い」が、『⑧ 障害のある方が在宅で生活できるようにホームヘルパーなどのサービスを充実させること』で「やや優先度が高い」が、『⑬ 地域のボランティア活動を充実させること』で「どちらでもない」「優先度が低い」が、『⑤ 一般市民が障害についての理解を深められるように交流を促進すること』で「やや優先度が低い」が高くなっています。



障害児調査では、『⑫ 家族などの介助者の負担を軽減するための支援を充実させること』で「優先度が高い」が、『④ 障害を早期発見し、早い段階の療育やリハビリテーションなどによって重度化を防ぐこと』で「やや優先度が高い」が、『③ 市民の健康や安全に配慮し、事故や疾病による障害を予防すること』で「どちらでもない」「優先度が低い」が高くなっています。



特別支援教育利用者調査では、『⑫ 家族などの介助者の負担を軽減するための支援を充実させること』で「優先度が高い」が、『⑩ 障害のある方が住みやすい住居や施設を確保・整備すること』で「やや優先度が高い」が、『⑬ 地域のボランティア活動を充実させること』で「どちらでもない」が、『⑪ 障害のある方が文化・芸術活動やスポーツなどに参加しやすい環境を整備すること』で「やや優先度が低い」「優先度が低い」が、『⑧ 障害のある方が在宅で生活できるようにホームヘルパーなどのサービスを充実させること』で「わからない」が高くなっています。



9 調査結果 ～親亡き後や将来の生活について～

① 親亡き後や将来の生活について

問 あなたは、親なき後や将来の生活について、心配なことや不安がありますか。
【特に当てはまるものについて、3つまで○をしてください】

障害者調査では、「住む場所」の割合が27.3%と最も高く、次いで「生活に必要な収入」の割合が26.4%、「日常的な介助や家事の援助」の割合が25.2%となっています。

	調査数	住む場所	日常的な介助や家事の援助	日常的な意思決定や支援	相談できる人や機関	医療機関の受診	生活に必要な収入	お金の管理や支援	日中を過ごす場	休みの日の過ごし方	緊急時の支援	その他	特にない	無回答
全体	1,461	27.3	25.2	12.9	17.0	12.8	26.4	22.6	2.2	2.2	21.7	3.6	18.8	9.0

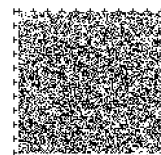
問 お子さんの親なき後や将来の生活について、心配なことや不安がありますか。
【特に当てはまるものについて、3つまで○をしてください】

障害児調査では、「日常的な介助や家事の援助」の割合が47.0%と最も高く、次いで「住む場所」の割合が45.7%、「お金の管理や支援」の割合が44.3%となっています。

	調査数	住む場所	日常的な介助や家事の援助	日常的な意思決定や支援	相談できる人や機関	医療機関の受診	生活に必要な収入	お金の管理や支援	日中を過ごす場	休みの日の過ごし方	緊急時の支援	その他	特にない	無回答
全体	219	45.7	47.0	31.1	26.0	11.4	36.1	44.3	5.9	3.2	16.0	3.7	2.3	2.3

特別支援教育利用者調査では、「生活に必要な収入」の割合が43.7%と最も高く、次いで「相談できる人や機関」の割合が32.9%、「お金の管理や支援」の割合が31.6%となっています。

	調査数	住む場所	日常的な介助や家事の援助	日常的な意思決定や支援	相談できる人や機関	医療機関の受診	生活に必要な収入	お金の管理や支援	日中を過ごす場	休みの日の過ごし方	緊急時の支援	その他	特にない	無回答
全体	158	23.4	8.2	20.3	32.9	4.4	43.7	31.6	2.5	3.2	8.2	2.5	23.4	7.0

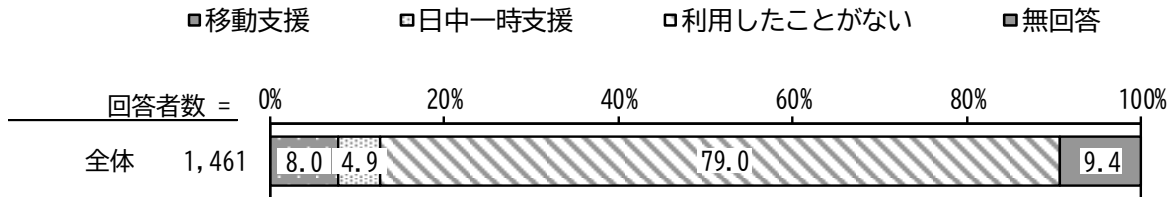


10 調査結果 ～地域生活支援事業について～

① 地域生活支援事業の利用について

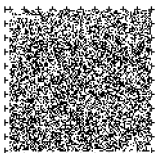
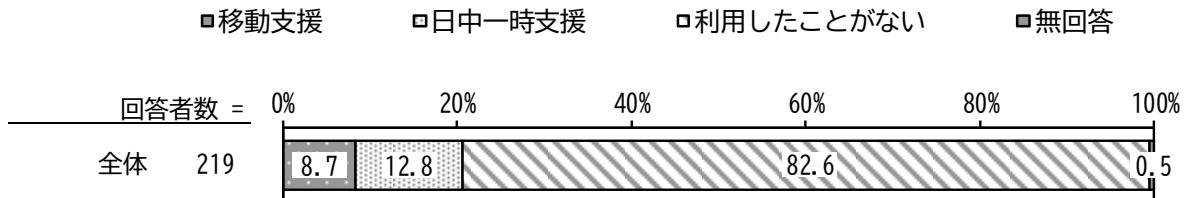
問 あなたは、次の地域生活支援事業を過去1年間に利用したことがありますか。利用したことがあるサービスに○をつけてください。【○はいくつでも】

障害者調査では、「移動支援」の割合が8.0%、「日中一時支援」の割合が4.9%、「利用したことがない」の割合が79.0%となっています。



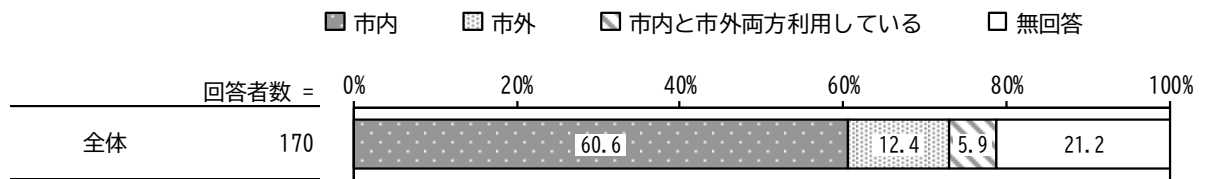
問 お子さんは、次の地域生活支援事業を過去1年間に利用したことがありますか。利用したことがあるサービスに○をつけてください。【○はいくつでも】

障害児調査では、「移動支援」の割合が8.7%、「日中一時支援」の割合が12.8%、「利用したことがない」の割合が82.6%となっています。

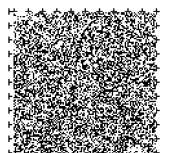
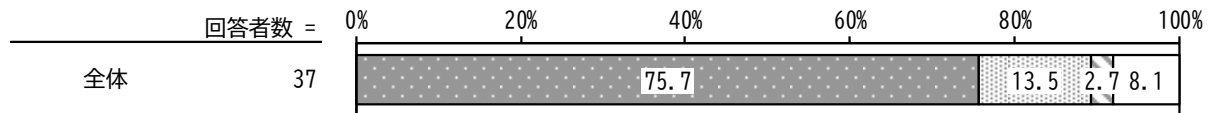


問 現在利用しているサービスの事業所（施設）は市内の事業所（施設）ですか。
【〇は1つだけ】

障害者調査では、「市内」の割合が 60.6%、「市外」の割合が 12.4%、「市内と市外両方利用している」の割合が 5.9%となっています。



障害児調査では、「市内」の割合が 75.7%、「市外」の割合が 13.5%、「市内と市外両方利用している」の割合が 2.7%となっています。



問 市外の事業所（施設）を利用している理由を教えてください。

障害者調査では以下の通りです。

自由意見	52 件
特定の施設を利用しているため	15 件
市内に適切な施設や空きがないため	14 件
紹介による利用	7 件
交通・アクセスの良さ	6 件
不要・必要性がない	2 件
難病対応	1 件
その他	7 件

※1つの意見が複数のカテゴリーに該当することがあり、各カテゴリーの意見の合計と自由意見の件数が一致しない場合があります。

自由意見（一部抜粋）

【特定の施設を利用しているため】

- 市外の施設が自分に合っている為。
- 在籍していた学校が運営しているグループホームだから。
- 広い場所で人の目に注目されないため、市外の施設をよく利用している。

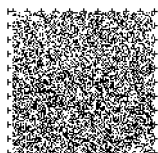
【市内に適切な施設や空きがないため】

- 市内事業所だけでは支援ニーズにキャパ的に応えられない。
- たまたま利用したい施設が市内に無かった為。

障害児調査では以下の通りです。

自由意見

- メインの事業所の定員オーバーの曜日だけやむを得ず利用している。
- 市内に空きがある事業所を見つけられない。
- 子どもが昨年まで外出時に医療的ケアが必要だったが、医療的ケア児を学校まで送迎してくれる事業所が市内になかったため。
- 市内に使える事業所がないため。
- 市内で見つからなかったから。



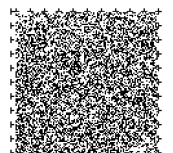
問 地域生活支援事業について、困っていることや改善してほしいことはありますか。【〇は
いくつでも】

障害者調査では、「サービス提供や内容に関する情報が少ない」の割合が18.9%と最も高くなっています。

調査数	サービス提供や内容に関する情報が少ない	サービス事業者が少ない	サービス利用の手続きが大変	事業者との日時などの調整が大変	利用できる回数や日時が少ない	サービスの質について	他の利用者との関係について	利用者負担について	その他	特に困っていることはない	無回答	
全体	1,461	18.9	7.9	8.4	4.3	4.4	6.0	3.2	5.0	4.2	46.4	20.3 (%)

障害児調査では、「サービス事業者が少ない」の割合が43.4%と最も高く、次いで「サービス提供や内容に関する情報が少ない」の割合が37.9%、「サービス利用の手続きが大変」の割合が21.9%となっています。

調査数	サービス提供や内容に関する情報が少ない	サービス事業者が少ない	サービス利用の手続きが大変	事業者との日時などの調整が大変	利用できる回数や日時が少ない	サービスの質について	他の利用者との関係について	利用者負担について	その他	特に困っていることはない	無回答	
全体	219	37.9	43.4	21.9	17.4	18.3	8.2	2.3	11.4	6.8	22.4	10.0 (%)



令和7年度実施
西東京市の障害者福祉に関する調査報告書
【概要版】

発行年月：令和8年3月
発行：西東京市 健康福祉部 障害福祉課
〒188-8666
東京都西東京市南町五丁目6番13号
(西東京市役所田無庁舎)
電話：042-464-1311 (代表)
F A X：042-466-9666

